

令和５年度 学 校 評 価 表				
学校番号		18	学校名	長野工業高等学校
学校教育目標	自らの人生と新たな社会の創造に誠実に努力する人を育てる。			
学校重点目標	【高校生の人格を磨き、可能性を最大限伸張させるために、次の目標を推進する】 ○普通科と専門科の両方の学力を伸長する。 ○５Ｓ（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を軸に、基本的生活習慣や礼節を養う。 ○生徒個々の可能性や能力を最大限伸ばし、自己実現をサポートする。 ○人権を尊重し、いじめや体罰を許さない安全安心な学校づくりを推進する。			
		評価基準：Ａ 十分満足している Ｂ 満足している Ｃ 不満足である		
評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果や次年度への課題（概要）
学習指導	教育課程	・教育課程が生徒の学力の伸長へと繋がるよう、各科でシラバスの充実改善を図る。 ・新学習指導要領に基づき、令和6年度のシラバスを策定する。	Ｂ	・生徒の進路に合わせた科目選択の指導を、各教科・学年会と協力し行うことができた。 ・令和4年度および5年度入学生教育課程について時間的余裕の無いなかでの変更があり、生徒・保護者・県への対応に迫られる形となった。次年度は3年次まで新教育課程となるなか、各科目の教育効果を検証し、各科で先を見通した対応を行う。 ・観点別評価が年次進行で進むなか、各科目のシラバスへの表記、表現について、実際の授業での学習指導を踏まえ、引き続き研究・検証し、適宜修正を行う。
	学習指導	・基礎学力診断テストや生徒への「授業評価アンケート」を分析し、生徒の学力実態を正確に把握し、基礎学力の着実な定着と向上を促すための対策を講じる。 ・新しい学習評価の実践と分析を行い、生徒が主体的かつ対話的で深い学びを行えるよう、教員の指導と評価を一体的に充実させる。 ・「総合的な探究の時間」において、探究的な学びを通して生徒の自己理解や社会理解を促進する。□	Ｂ	・基礎学力診断テストについてはベネッセ担当者と担任団との分析会を実施し、懇談会などでの最適な指導法を検討し、提供することができた。また、生徒への「授業評価アンケート」を8月と12月の2回実施し、生徒の実態を踏まえ、授業改善に繋げることができた。来年度は第1回を7月に行い、学期に合わせた実施としたい。 ・新しい学習評価の実践・研究が各教科でさらに進められた。全教科にアンケートを行い、学習評価の実情や問題点を把握することができた。 ・2学年の「総合的な探究の時間」では、外部講師による講義や地域企業の講演等を実施し、社会に出る自分を具体的に考える力を育成するための機会とすることができた。
	キャリア教育	・6つの専門学科を巡回して学ぶことにより、専門技術の幅を広げる。 ・産業フェア、ビジネスフェア等に参加し、地元企業に対する理解を深める。 ・就業体験や企業見学等により、勤労観・職業観を育み、自己理解・社会理解の深化を図る。 ・信州大学、諏訪東京理科大学との連携による長期の研究を体験することで、専門性の深化を図るとともに、大学に対する理解を深める。 ・「課題研究」において主体的な課題解決型の学習に取り組む。また、発表会を開催することにより成果を全校で共有する。	Ｂ	・6つの専門学科を巡回して学ぶ活動、産業フェア、ビジネスフェアへの参加等、計画通りに実施できた。自分の専門を広げ、地元企業への理解を深めるために意義のある活動となった。 ・就業体験を地域企業の協力で実施することができた。2年生全員の参加を目指しており、参加生徒223名、企業のべ124社にご協力を頂いた。 ・信州大学工学部との「高校生研究室体験プロジェクト」では、すべての科の生徒が研究に取り組んだ。また、諏訪東京理科大学との連携では、電気電子工学科、情報工学科の生徒たちが研究に取り組んだ。いずれも最先端の研究に参加できる機会が得られた。 ・「課題研究」は各専門科で発表会が開催され、1月23日には全校での発表会が開催される予定である。
	資格検定等	各種コンテスト、資格取得や技能検定へ積極的に取り組めるように、案内、指導助言を行う。	Ｂ	・工業科の専門性を生かした資格の取得をはじめ、普通科系も含めた検定試験への取り組みが進むよう、支援ができた。
進路指導	進路実現	・生徒や保護者の要望にそった進路情報の提供と、生徒自身の目標・能力・適性に応じた進路が実現できるよう、企業・上級学校の現状を踏まえた適切な指導・助言を行う。 ・オープンキャンパス、インターンシップ等の校内では得られない体験を通じて、職業観の醸成や将来の生き方を考えさせる。そのためには、コロナ禍で滞っていた対面による企業説明会・学校説明会等を積極的に活用する。 ・生徒の進路実現のために学年進行に沿った系統的な指導を充実させるとともに、就職先・進学先の情報収集や研究、開拓等を行う。 ・新教育課程への移行に合わせて改定が予定されている調査書の記載について、関係部署と連携を取りながら、その方針を策定する。	Ｂ	・生徒の進路実現のために、生徒個人への指導はもちろんこと、保護者への個別指導も展開した。それぞれの家庭事情もあるため、個別指導充実の必要性を再認識した。 ・生徒個別に参加するオープンキャンパスには配布物、掲示等で情報提供をすることができた。また、市内で開催される各種説明会等には学年単位で参加することができた。 ・今年度は、学習指導係との連携で志願理由書等の作成方法に関わる指導ができた。 ・調査書の様式にかかわる情報については、機会あるごとに関係部署と連絡を取っているが、本稿作成時点では未だ確定がなされていない。しかしながら、引き続き情報収集と対応に努めたい。
生徒会	班・同好会活動の充実	・学業と班同好会活動は教育活動において両輪であるという考えに基づき、生徒達の可能性や能力を最大限に伸ばせるよう支援する。	Ｂ	班活動は、生徒の取り組み姿勢や教員の働き方改革などにより温度差が生じている。現在生徒会執行部では、班の降格について検討しており、来年度クラブ顧問会、職員会を経て生徒総会に提案する予定である。
	自主活動への支援	・地域との連携を生徒会活動の重要な柱と考え、生徒が企画・運営に積極的にかわる中で、自主性を育めるようサポートする。また、生徒会の諸行事を通して、執行部を中心に全校生徒が創造性を発揮し、思い出深い高校生活が送れるように支援する。	Ｂ	本年度、安茂里地区との共同企画であったイルミネーション設置はなかったが、4月に行われた長野車いすマラソンへのボランティア活動には、執行部を中心に大勢の生徒が参加できた。また、学校開放(長工祭)では、コロナ明けということもあり、すべてを通常に戻し、盛況に行うことができ、生徒にとって良い思い出作りができた。
清 美	清掃美化活動	・清掃活動が円滑に行えるよう清掃用具の充実等に努めるとともに、校内美化について意識の向上を図る。 ・引き続きゴミの分別と資源化をすすめ、ゴミ総量の減量についても取り組む。	Ｂ	・清掃用具の補充や交換は、校内で情報共有を行い円滑に実施することができた。校内整備に対しては、生徒会清美委員会の活動を軸にモップ交換時やごみ収集時など、ことあるごとにゴミの分別を促し、リサイクル資源への意識の向上につなげることができた。
生徒指導	安全安心な学校	・校内情報の共有化により、職員一致による協力体制を図り、暴力やいじめ等の無い、安全・安心な学校作りを行う。 ・交通ルールの遵守を呼びかけ、登下校中の交通事故防止に努める。	Ｂ	・大きな問題行動は発生していない。いじめの件数が増えたが、これは未然防止のためにアンケートを細かく行っている結果であり、大きなトラブルには至っていない。交通事故件数は減少している。次年度も全職員に協力を仰ぎ、恒常的に取り組んでいきたい。
	基本的生活習慣	・頭髪等の身だしなみをはじめ、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を励行する。礼節を重んじ、時間を守ること等の指導を通して、常識ある行動ならびに社会で通用する基本的生活習慣とマナーの確立を図る。 ・地域に信頼され、評価される長工生を目指す。	Ｂ	・ここ数年、朝の遅刻がだいぶ減少している。これは、担任を始め、全職員で遅刻を少なくすることを目標に取り組んできたことが功を奏した結果であり、次年度も続けていきたい。 ・問題行動件数も少なく、全体的に落ち着きがかもし出されている。 ・自転車についてはヘルメットが努力義務となったが、着用率が上がっていない。次年度には改善できるように取り組んでいきたい。
	教育支援	・教育支援が必要な生徒情報を随時更新し、アセス(学校環境適応感尺度)を全生徒に実施することで生徒理解に努める。SOSの出し方教育を全生徒に実施し、相談窓口を常時掲示することで、生徒がSOSを出しやすい環境をつくる。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、長野県教育相談窓口等との連携を行い、適切な支援を行う。	Ｂ	・教育支援が必要な生徒一覧を昨年度より早い時期(在校生は4月上旬、新入学生は4月中旬)に職員間で共有できた。また、随時更新させている。 ・アセス(学校環境適応感尺度)の実施は、一部の生徒について分析までに時間がかかってしまった。 ・SOSの出し方教育は随時LHR内で行っているが、来年度はより効果的なものとするために外部講師による講演会を企画したい。 ・カウンセリング重点校となり、年度当初に75時間、追加で12時間、計87時間を配当いただき、生徒・保護者にスクールカウンセリングを活用している。 ・スクールソーシャルワーカーには3件、教育相談窓口(養護学校)には2件、児童相談所には2件について連携し、支援を行っている。
開かれた学校づくり	授業公開等	・開かれた学校教育を目指し、授業公開を実施し教育活動を広く周知する。また、この活動を通じて授業改善や教員の資質能力の向上を図る。	Ａ	・5/27、6/15の授業公開ともに保護者、中学生、地元の方々など多くの参観者が来校した。近年、中学生の参観も増えており、特に今年は本校の様子を積極的に見たいという中学生が多かった。ホームページでも参観の様子を紹介し、本校の授業の様子を広く伝えることができたのではないかと。
	広報活動の充実	・「長工、クール＆パワー」をテーマに長工の元気とかっこよさを広げる。具体的にはHPやパンフレットを活用してPR活動をすすめる。 ・女子中学生への浸透をはかるため「ジェンダーフリー」と「TECH女」をアピールする。	Ａ	・例年よりも積極的にホームページへの投稿をおこなった。情報を発信し、長工がさまざまな取り組みを行っていることを発信して、中学生や社会の認知度をあげよう努力した。クール＆パワーは伝えられたのではないかと。 ・女子をターゲットにしたジェンダーフリーを伝えるような発信は少なかったが、長工での女子の活躍は積極的に発信できたのではないかと。
	PTA活動	・諸々の教育課題を保護者と教職員が共有する研修等に参加したり、オクレンジャーの積極的な活用を図り、生徒の健全育成に努める。 ・教育効果向上のために一層の助成をはかる。	Ａ	・教育課題共有のため、長野県生涯学習センター主催研修会等へ参加できるようオクレンジャー(緊急連絡網)により8回連絡できた。 ・全日制の体育祭や定時制の体育大会において生徒全員へ飲料提供を行い、熱中症対策ができた。 ・災害発生時に帰宅困難者が出てくる可能性があるため、災害備蓄品の購入を行い、安心・安全の学校づくりを推進できた。 ・学校開放(長工祭)では、「地域・同窓会・PTA展」の出展に協力していただくことができた。
	生徒募集	・募集層の拡大をはかるため、男子中学生だけでなく女子中学生へのアピールを積極的に行う。	Ａ	・ホームページで「長工リケジョ2023」シリーズを連載した。中学生、中学生の保護者をターゲットとして企画し、女子生徒へのインタビューと画像の添付で活躍の内容を紹介した。どの程度の反響があったかは来年度の新生生の状況を見てもないかわからない。 (補足) ・ホームページで情報発信するためには、各科で募集増につながるような取り組みを提案して、ホームページでの発信に繋がらないと材料不足で玉切れになってしまう。次年度は各科で情報発信を意識した取り組みを計画してほしい

令和5年度 学校関係者評価アンケート

学校番号	18	学校名	長野工業高等学校
------	----	-----	----------

項目	評価の観点	評価			無回答
		A 満足	B 普通	C 満足 できない	
①	学校は、保護者・地域に対し、学校目標を提示するよう努めているか。	3	4		
②	学校は、保護者・地域と協働するために、保護者・地域のニーズを把握しているか。	4	3		
③	学校は、保護者・地域が日常的に学校に声（意見）を寄せられる体制を整えているか。	6	1		
④	学校は、学校の教育活動を保護者・地域に理解してもらえるよう努めているか。	6	1		
⑤	学校は、生徒の学習活動全般に対し、生徒の意見を反映させ改善・工夫等しているか。	7			
⑥	学校は、生徒の課外活動・進路指導等全般に対し、支援を推進しているか。	7			
⑦	学校は、P T A活動への支援を推進しているか。	5	2		
⑧	学校は、同窓会活動に対し、協力体制を推進しているか。	4	3		
⑨	学校は、地域の産業団体等と協力して生徒実習等の連携先を確保しているか。	6	1		
⑩	学校は、学校自己評価を適切に運用し評価をして改善へとつなげているか。	5	2		
上記①から⑩への補足の御意見、それ以外の御意見等がありましたら下記に御記入ください。					